

(案)

北自審第 号
平成25年 1月 日

北本市長 石津賢治様

北本市自治基本条例審議会
会長 有働秀鷹

北本市市民公益活動推進計画（案）について（答申）

平成24年12月26日付けで市長から諮問を受けた北本市市民公益活動推進計画（案）について、本審議会は北本市自治基本条例第26条第2項第1号に基づき、慎重に審議しました。

その結果、北本市市民公益活動推進計画（案）は、適切と思われるので答申します。

なお、計画を推進するうえで、下記の点に十分に配慮されることを要望します。

記

- 1 北本市自治基本条例に掲げられている「誰もが安心して生活できる個性豊かな自立したまち」の実現に向け、市民公益活動の支援については、北本市市民参画推進条例及び北本市協働推進条例と一体的に全庁で取り組んでください。
- 2 北本市市民参画推進条例等市民検討委員会の検討報告書には、市民公益活動が活性化するための方策として、相談窓口の整備の必要性が指摘されています。この問題を当計画に確実に位置づけ、今後、市民公益活動を地域コミュニティの活動と一体的に推進していくことを切に望みます。

その他、審議の過程で別紙のとおり各委員から意見が出されておりますので、十分に配慮されるよう要望します。

市民公益活動推進のために

- 北本駅東西自由通路に設置されているNPO・ボランティア掲示板はサイズが小さい。市民公益活動団体の広報活動を支援するのであれば、掲示板の拡大化について考慮してもらいたい。また、掲示板がNPO・ボランティア等の公益活動にあたらぬ市民団体の掲示板と隣り合わせになってから掲示物が混在してしまっている。しっかりと区別して管理してもらいたい。
- 北本市社会福祉協議会で行っている北本市ボランティアセンターでは、コミュニティセンター内に開設している市民公益活動支援コーナーにおいて、月1回ボランティア相談を実施しているが、支援コーナーの隣が図書室になっており、また仕切りも無いため、相談場所としては好ましい環境ではない。支援コーナーの充実はぜひ進めてもらいたい。
- 市は市民公益活動の広報をボランティアセンターにまかせきりの部分が多い。行政としてできること、やるべきことを考えて欲しい。年間を通じて市の広報で市民公益活動を紹介してはどうか。
- いくら計画をつくっても市民に理解されないことにはまちづくりは進まない。市民に提案する、また、市民が考える場としての市民フォーラムなどの開催を考えてはどうか。
- ボランティアグループの活動はどこか閉鎖的なところがあると思う。アンケートの結果にも出ているように「ボランティア活動をやってみたい」という市民は多くいるが、市内の市民公益活動団体や実際に行われている市民公益活動自体を知っている市民は少ない。多くの市民に「見たい、聞きたい、やってみたい」と思わせるような取り組みを考える必要がある。
- 人が普段あまり立ち寄らない場所に支援コーナーを設置しても効果が薄い。情報発信の面からも文化センターや市役所など、人が自然と集うような、また、多くの市民の目に止まる場所に設置することが望ましい。より多くの市民に興味を持ってもらい、拠点施設とするためには、市民が気楽に立ち寄れる環境づくりが必要と思う。

- 新庁舎の建設は市民の注目が集まる良い機会だ。この機会に市民公益活動のPRを一緒に行うことが望ましい。
- 自治会やコミュニティ活動の推進計画の策定についても検討する必要がある。コミュニティ活動と市民公益活動がうまく組み合わせあって進んでいくと良いと思う。そのためには一体的な支援体制が必要だ。
- 北本市自治基本条例に掲げられている協働のまちづくりには、議会も含まれる。今後、議会への働きかけはどのように進めていくべきなのか。市民と市との協働のまちづくりを進める中で、議会自体の協働の取り組みや改革は重要である。